

手引の使用にあたって

教育課程は、各学校が主体的に編成することが大切です。その際、「指導計画の作成と内容の取扱い」を踏まえて、3年間の見通しをもって年間指導計画を作成しましょう。

体育分野においては、中学校第1学年及び第2学年においては、2年間の見通しをもって、効率的で効果的な指導と評価の計画を作成しましょう。

第3学年においては、生涯にわたる豊かなスポーツライフの基礎を培う観点から、生徒が選択して学習ができるよう配慮することや、生徒の希望ができる限り可能となる教育課程編成を工夫しましょう。

保健分野においては、授業時数は、3年間を通じて適切に配当するとともに、体育分野との関連はもちろん、健康に関する指導に関わる教科等や個別指導との連携を図るなどの教育課程編成を工夫しましょう。

本手引は、下記を踏まえて作成しています。各学校の実態に応じて参考にし、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりを行いましょ。

- 1 本手引では、下記の年間指導計画例により第1学年及び第2学年について2年間を見通して単元計画を構成しました。各学校の実態に応じて年間計画を作成しましょう。

2学期制		前期													後期																				
3学期制		1学期													2学期										3学期										
月	4月	5月					6月			7月		9月			10月		11月			12月		1月		2月		3月									
週	1週	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	1	体づくり	陸上競技10 短距離走・			保健4			水泳10			ダンス10			球技12 ネット型			武道10			陸上競技6 長距離走			球技13 ゴール型											
	2	4	リレー5 ハードル走			器械運動8			体づくり3			体育理論1																							
	3	5																																	
第2学年	1	体づくり	陸上競技7 走り幅跳び・走り高			保健8			器械運動6			水泳10			ダンス10			球技10 ベースボール型			武道10			球技10 ネット型			陸上競技6 長距離走			球技10 ゴール型					
	2	3	跳び																																
	3	3	体育理論2																																

2学期制		前期													後期																				
3学期制		1学期													2学期										3学期										
月	4月	5月					6月			7月		9月			10月		11月			12月		1月		2月		3月									
週	1週	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
第1学年	1	体づくり	陸上競技10 短距離走・			保健4			器械運動8			球技12 ネット型			武道10			陸上競技6 長距離走			球技13 ゴール型														
	2	4	リレー5 ハードル走			ダンス10			水泳10			体づくり3			体育理論1																				
	3	5																																	
第2学年	1	体づくり	陸上競技7 走り幅跳び・走り高			保健8			器械運動6			水泳10			ダンス10			球技10 ベースボール型			武道10			球技10 ネット型			陸上競技6 長距離走			球技10 ゴール型					
	2	3	跳び																																
	3	3	体育理論2																																

- 2 体育分野の各領域及び保健分野の冒頭に、「学習指導要領に係る主な内容及び内容の取扱いの改善」を示したので確認しましょう。

- 3 それぞれの単元でどんな力を育成するか「単元の目標」を確認しましょう。
- 4 「単元の評価規準」「指導内容」「単元構想」「指導計画と評価計画」の作成の仕方を手順に沿って示しています。
- 5 「具体的な指導内容」として、下記の内容を載せているので参考にしましょう。
 - (1) 関連して高まる体力とその体力向上の手立て
 - (2) 基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得のために（技能向上のための手立て）
 - (3) ICT活用
 - (4) 障がいのある生徒への配慮
 - (5) 体力や技能の程度, 性別や障がいの有無を超えて運動やスポーツを楽しむために, 運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような学習活動・学習形態・練習の取り組み方, ルールやゲームの工夫, 男女共習の工夫例など
- 6 単元構想は下記に留意しましょう。
 - (1) 「単元終了時の生徒の姿」は, 目標や評価基準を踏まえ, 具体的な学習や生活の場面での子供の姿になるようにしましょう。
 - (2) 「単元を通した学習課題」は, 子供たちが単元を通して興味・関心を持ち, 子供たちと共有できるものにしましょう。また, 知識及び技能など一部が重視されることなくバランスよいものにしましょう。
 - (3) 「本単元で働かせる見方・考え方」は, 単元の学習全体を通した見方を示します。考え方は, 多様なかわり方として, 主に「技能」から「する」, 「思考・判断・表現」から「みる」, 「主体的に学習に取り組む態度」から「支える」, 「知識」から「知る」の内容を示しましょう。
- 7 指導計画・評価計画を踏まえた学習内容・活動を示しました。授業づくりの参考にしましょう。
- 8 その他
 - (1) 学習指導要領解説の指導計画の作成を参照して下記を踏まえた授業づくりを心がけましょう。(P数字は, 学習指導要領解説の掲載ページ)
 - 障がいのある生徒などへの配慮 (P233)
 - 体力や技能の程度, 性別や障がいの有無を超えて運動やスポーツを楽しむために, 運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような留意 (P236)
 - 情報活用能力の育成 (P238) ○道徳科などとの関連 (P235)
 - 言語活動 (P237 参照) ○体験活動 (P239)
 - 個に応じた指導 (P240)
 - 学校における体育・健康に関する指導との関連 (P240)
 - 体育分野と保健分野の関連 (P241)

※ 思考力, 判断力, 表現力等(思考・判断・表現の評価規準)は, 基本的に例示のとおり示していますが, 実際には, 授業の内容に応じた学習内容・評価基準を設定しましょう。